

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 松ヶ江北 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「書くこと」の内容が全国平均値を上回り、条件を満たした記述回答がよくできている。一方で、資料を活用したり、集めた材料を分類したり関係付けたりして表現の工夫や内容を検討することに課題がある。
	よくできた問題	・記述式の正答率が高く、全国平均値を上回ることができた。
	努力が必要な問題	・「知識及び技能」に関する内容では、「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られる。

算数	全体的な傾向や特徴など	平均正答率は、全国平均値を上回っている。「知識及び技能」に関する内容は、全体的によくできている。「思考・判断・表現」に関する内容では、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて説明したり、必要な数値を読み取って式に表したりすることに課題がある。
	よくできた問題	・学習指導要領の領域「図形」「変化と関係」は、全国平均値を上回っている。
	努力が必要な問題	・学習指導要領の領域「数と計算」「データの活用」は、全国平均値を下回っている。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析	
・「授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」について全国平均を上回っている。引き続き、ICTの活用を推進していくとともに、GIGA端末の効果的な活用の仕方についても職員で周知を図るようにする。 ・書くことに対する苦手意識が高かったため、振り返りや感想を書く時間の設定や一言日記を書く取組をしてきた成果として、「国語の授業で自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている」との問いに対して、85%の児童が肯定的に回答している。 ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」について肯定的な回答が全国平均を下回っている。誰一人取り残さない学びを目指し、学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業が必要である。 ・「授業時間以外に一日当たりどのくらい勉強をしますか」との問いに対して、30分より短い児童はいない。家庭学習の習慣が身に付いている。「家庭学習チャレンジの日」の設定により、家庭学習の啓発や自主学習の取組を全校で進めていき、学校と家庭が連携した取組を進めていく。 ・「自分にはよいところがあると思いますか」について肯定的な回答が全国平均を下回っている。行事や道徳科、総合的な学習の時間等の内容や方法において児童が達成感・充実感を得られるように工夫していく。 ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいことはありますか」について肯定的な回答が全国平均を下回っている。総合的な学習の時間をはじめ、様々な教科の学習の中で地域との繋がりをたいせつにし、人・もの・ことや特性を学ぶ機会や体験活動等の充実を図っていく必要がある。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・学習後に振り返りや感想を書く時間を設定したり、一言日記を書いたりする取組をこれからも継続して行っていく。書くことに対する苦手意識を失くしていく。そして学習した漢字を正しく適切に使えるようにしていく。 ・「松北家庭学習3点セット（漢字・計算・音読）」の実施を毎日行っていく。また、家庭学習の意義や取組状況等について、通信・懇談会等で家庭に情報を発信する。 ・総合的な学習の時間における探究の過程などを通して、課題を見出し、たくさんの情報を取捨・選択、整理・分析し、解決策を考える等、深い学びの視点で授業づくりを行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・基本的な生活習慣の定着、生活時間（特にゲームの時間）の見直し等の大切さや必要性について、継続して情報を発信するとともに各家庭に協力を依頼する。 ・学習の中で、地域のゲストティーチャーを招いたり、校区にある施設を訪れたりすることで、児童と地域を繋ぐようにする。また、生活科・総合的な学習の時間を中心に根ざした学習を進めることで、自分の住んでいる地域に対する関心・愛着を高めていく。
--